

イオラニ、 プナホウへの道



ドクター高橋俊明
心理学博士
ドクター高橋塾長
宮崎県出身。東京教育大
理学部生物学科卒業。東
京教育大教育学部心理学
科で修士号取得、ハワイ
大心理学部で博士号取得。1968年に川崎市、
69年に文京区、そして77年にホノルルに塾を
設立。2016年5月現在、塾からハナホウオリ校
に3人、プナホウ校に53人、イオラニ校に33人
合格。平均合格率は55%。
Web: www.juku-in-hawaii.com
☎ 808-949-3366 / 808-679-5612 (日本語)

【その142】ハワイを教育立州に

母校東京教育大が移転し筑波大となる1974年、教育大最後の大学院修士卒業生の私は、博士号取得先を筑波大でなく日米比較文化心理学の本場ハワイ大学にしました。過去7年間、多くの生徒たちとの出会いがあった私の教育の原点である文京区と川崎市の塾を人手に渡すという苦渋の決断の末にハワイへ移住。ハワイ大学での学究生活が始まってすぐ、あることに気づいたのです。それは「ハワイの爽やかな気候が勉学に適していること」と「人材育成の塾がないこと」でした。

勉学に最適のハワイ

ハワイの早朝の爽快さは、日本の「読書の秋」を彷彿とさせ、私は今までの夜型生活を朝型に切り替えました。空が白々と明け初め、小鳥のさえずりがかまびかしくなる頃、早々と研究に没頭したものです。大都会東京での生活は、満員電車で飛び込み、地下鉄乗り換え通路を駆け、雑踏を潜り抜け…と、脳科学が

ら見て、心身に大きなストレスが恒常的に蓄積されていきました。ところがハワイは全くの真逆。勉強がひと段落すると、車で10分先のカハラヒルトン(当時)のビーチフロントに行つて、ぼんやりと海を見ながらコーヒーを楽しんだものです。気分転換できる最高の自然がすぐそばにあると実感したひと時でした。研究を終えて帰途に就いたある夕暮れどきなど、天空を覆う荘厳な夕焼けに息を飲みしばし見とれたものでした。

理想の教育計画

1977年にハワイに塾を設立してから、少しずつ理想の教育というものに近づく道筋が見えてきました。まず第1段階として、「人種偏見のない真の国際人」になるための、幼稚園から中学までをハワイのよりよい教育機関でのびのびと過ごすこと。第2段階として、もし可能なら、高校からは世界中から秀でた生徒たちが集まるトップテンと言われる全寮制の高校に進学

鳳雛(ほうすう) 揺籃の地・ハワイ

総合雑誌「潮」6月号の対談「21世紀に求められる知性とは何か」(京大総長ほか)の中に、「歴史をひもとくと、新しいモデルや哲学は、『辺境の地』とされた場所から送り出されてきた」との発言があります。これは、「劇場国家」にっぽんブログ、1・27・「16」の「『辺境の地』とは、中央の文化の影響を受けつつも、古来からのその地域独自の文化を有している地域『自然との一体感』『野生の感性』が息づいている地」と言うことでしょう。

プリンストン大学で政治学教授だったグレン・ペイジ博士は、非暴力政治学樹立を目指しハワイ大学に赴任しました。大統領顧問やプリンス

トンの「生涯教授資格」を捨てての決断でした。そんな彼に、訪問してくるプリンストンの友人たちが必ずと言ってよいほど同じ質問をしたそうです。「グレン、君はこんな暖かい所において、だめにならないのか？」と。そのたびにペイジ博士は微笑し言いました。「ハワイに来ると、ダメな奴はもつとダメになる。しかし偉大な人間は、さらに偉大になる」と。

そういえば留学1年目のことですが、全米大学視察の最後にハワイ大に立ち寄った筑波大初代総長も、迎え出た私の顔を見るなり、「なんでこんな所に来たんだ！」と吐き捨てるように言ったものです。しかし私は、約40年前の塾創立当初から「ハワイから必ず大統領やノーベル賞受賞者が続々と出る。塾はそのお手伝いをする。」と公言してきました。

写真は、鳳凰(ほうおう)オバマに続く鳳雛です。



2016年度 合格者